

「国際情勢の変化に伴う、アジア欧州間物流ルートの変動と、

欧州地中海地域港湾発展への影響」 報告要旨

桜美林大学リベラルアーツ学群

松尾昌宏

2020年以降の国際情勢の度重なる激変は、アジア欧州間における国際物流ルートの形成や、欧州サイドの各港湾の発展に多大なインパクトをもたらしている。

まず、1990年代以降の中国等東アジア諸国の高成長は、アジア - 欧州間海上輸送の拡大とともに、欧州サイドでよりアジアに近い地中海港湾の成長を引き起こした。さらに2013年に中国で「一带一路」が始まると、陸路鉄道輸送の成長が加速するとともに、海上輸送においては、ギリシャのピレウスを中心とする東地中海経由ルートが、アジア欧州間輸送の新たなメインルートとして確立された。

しかし、2020年以降の一連の国際情勢の急変により、こうした安定状態には終止符が打たれた。まず、2020年のコロナ危機やその翌年のスエズ運河座礁事故は、海上輸送の混乱と価格高騰による鉄道輸送へのシフトを引き起こした。ところが2022年に入ると今度はロシアのウクライナ侵攻に伴う中欧間鉄道輸送の激減、他方でコロナ収束に伴う海上輸送の混乱収束に伴い、東地中海経由ルートへの回帰が起こった。ところがその1年後の2023年10月には、ハマスによるイスラエル攻撃、それに対するイスラエルのガザ侵攻と大量破壊と殺戮、それを非難するイエメンフーシ派の貨物船攻撃による紅海危機が起こった。これに伴い、船会社はアジア欧州間輸送をスエズルートから喜望峰回りルートへと切り替えることを余儀なくされ、東地中海港湾は、大きな打撃を受けた。

一方、こうした国際情勢の激変を尻目に、否、むしろこれを天祐として奇跡的な成長を遂げて来たのが、モロッコ、タンジェ MED.港である。同港の開港は2007年とかなり新しいにもかかわらず、その後の世界最速とも言える爆発的な成長により、2024年のコンテナ貨物取扱量は1000万TEUを超え、欧州最大のロッテルダムに迫る勢いである。一体なぜ、これほどまでの高成長が可能であったのか。背景には、上記の国際政治情勢の影響に加え、それ以前からの王室主導の戦略的な投資環境整備と、国際社会とのユニークな関係構築が深く関わっている。

本報告では、以上のような近年の国際情勢の変化が、アジア欧州間の物流ルートの変化を通じて、欧州側諸港湾間の競争優位性や地域発展に与えてきた影響について、タンジェ MED.港を中心にその動向を追い、今後を展望する。